だれでも分かる
教育情報
&
ニュース

*** 生徒向け ***

11月の行事　「酉の市」って何？

酉の市は、江戸時代から続く代表的な年中行事で、毎年11月の酉の日に行われる祭りです。酉の市は、各地の大鳥神社などの一部の寺社で行われ、開運招福（運を良くし、幸福をまねく）・商売繁盛を願います。日本の暦では、十二支の「子・丑・寅・卯…」という12種類の動物が毎日振り分けられているので、酉の日は12日おきに回ってきます。そのため、祭りが2回の年と3回の年があり、現在でも「三の酉」まである年は、火事が多いといわれています。今年の酉の日は、11月8日と20日です。

酉の市といえば、縁起熊手が有名です。金銀財宝をつめ込んだ熊手で、運を「かっ込む」、福を「はき込む」といって開運招福・商売繁盛を願った縁起物で、次の年の更なる幸福を願って、熊手は年々大きなものにかえていくのが良いとされています。

酉の市の熊手（写真　YNS/PIXTA）▲

リチウムイオン電池

ノーベル科学賞に　吉野彰さん

今年のノーベル化学賞に、大手化学メーカー「旭化成」名誉フェローの吉野彰さんら3人が選ばれました。充電して繰り返して使えるリチウムイオン電池の開発が評価されました。「太陽光などの多くのエネルギーを蓄えることができ、化石燃料のない社会の基盤を築いた」ことが授賞理由です。

吉野さんとともに受賞するアメリカの研究者は、電池の正極材料を開発したり改良したりしました。吉野さんは、1985年にリチウムイオン電池の負極に炭素素材を使うことで商業生産可能なリチウムイオン電池を作ることに成功しました。

スマートフォンやノートパソコンなど、持ち運びできるＩＴ機器が私たちの身の回りにはたくさんあり、多くの恩恵を受けています。寿命が長く小型で軽量、何度でも使えるリチウムイオン電池がこれらの機器を、そして「IT革命」を支えています。

アルフレッド・ノーベル

「源氏物語」最古の写本発見

鎌倉時代の歌人・藤原定家（1162～1241年）が自ら校訂した写本「定家本（青表紙本）」が新たに発見されたことが分かり、貴重な資料として注目されています。

平安時代に紫式部によって書かれた「源氏物語」は早くから原本がなく、様々な写本が伝わったため、間違いも多かったとされます。定家は復元を目指して、別の写本に自分の研究を加えて家来に写させて写本54帖を完成させました。これまで定家の写本として確認されたものは4帖で、いずれも重要文化財です。今回発見された「若紫」には主人公光源氏と幼い紫の上との出会いなど、有名な場面が収められています。

青空，夕焼け…空の色が変わるのはどうして？

晴れた日の空は青く見える。でも、朝や夕方は、空が赤く染まって見える。このように、空の色が変わるのは、どうしてだろう？

太陽の光は，いくつもの光の集まり

太陽の光は、色がないように見えるが、いくつもの色の光がまざっている。太陽の光が雨つぶで分けられると、にじが見える。太陽の光は、にじのように、さまざまな色の光に分けることができるのだ。

空に見えるにじ。
太陽の光が
分けられて
見えている。

昼間は青い光が散乱

太陽の光は、大気を通るとき、目に見えない空気のつぶ（ちっ素や酸素など）にぶつかり、いろいろな方向に散る。これを、「散乱」という。太陽の光のうち、青い光がもっとも散乱しやすく、赤い光は散乱しにくい。昼間の空は、散乱しやすい青い光が主に目に届くので青く見える。

青空が青いのは，
青い光が散乱しやすいため。

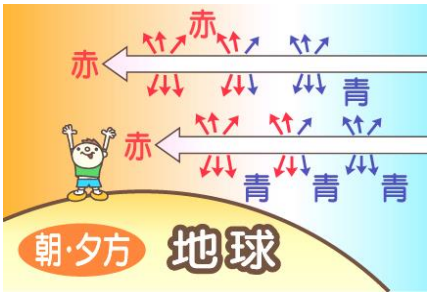
昼間の空。
青い光が散乱しやすい。

朝と夕方は，赤い光が見える

朝や夕方は、昼間に比べて、太陽の光が通る大気のきょりが長い。青い光は散乱され過ぎて、わたしたちの目まで届きにくい。散乱されにくい赤い光が主に目に届くので、朝や夕方の空は赤く染まって見える。

このように、空が青く見えたり赤く見えたりするのは、地球に大気があるため。大気のない宇宙は、まっ暗だ。

夕焼けに染まる空。



朝や夕方の空。
主に赤い光が目に届く。

雲の色は何の色？

雲は、細かい水のつぶの集まりだ。水のつぶが小さいと、太陽の光のほとんどを反射するため、白く見える。だが、水のつぶが大きくなると、雲が厚いために底のほうまで光が届かず、黒っぽく見える。水のつぶがさらに大きくなると、雨として降ってくる。雨が降りそうなときの雲が黒っぽく見えるのは、このためだ。

黒っぽく見える雨雲。

学研ＣＡＩスクール　中村橋教室　　TEL　5971-3615　　FAX　5971-3663
E-mail　cai-nogu@dd.iij4u.or.jp　　URL　http://jukutown.com/cai-nakamurabashi/